

## ■ On-Air 3000 ユーザーレポート

### 株式会社ラジオ福島様

On-Air 3000



#### On-Air 3000 で「e studio」を新設



株式会社ラジオ福島  
編成局 技術部  
安齋 宏治

#### 社屋増築とマスター更新

マスター老朽化により2007年4月にマスター更新することになりました。社屋増築を行い、その中にマスター設備の他、中継装置・監視装置・電源設備・MDFなどを新設することにより今後のデジタル時代に対応できるようにしました。

社屋増築にともないマスターの隣に新スタジオ「e studio」を計画、既存スタジオはワンマンのスタジオが5室、アナブース/サブのスタジオが1室の構成ですが、今回様々なシーンに対応するためにアナブース/サブのスタジオを検討することになりました。また選挙や駅伝中継、災害放送など大人数のスタッフが関わることを考慮し、情報スペースを設けた広いスタジオとしました。

#### 選定ポイント

ラジオ福島ではミキサーという専門職がいません。ワンマンのスタジオにおいてはアナウンサーが、アナブース/サブのスタジオにおいては技術社員やディレクターなどがミキサーを行っています。そういった点を踏まえて・・・

- ・ ディレクターでも操作が容易であること。
- ・ 生放送とCMや番組などの録音両方のシーンに対応できること。
- ・ オペレーターによってEQやCOMPなど様々な細かな調整が可能であること。

などを選定の主なポイントとしました。

また、マスターにデジタル信号のまま送出することを想定し、最初からデジタル卓で検討しました。

2006年春の段階で国内において既に数台納入実績のあった On-Air 3000 を検討機のひとつとし、早速スチューダー・ジャパン様に連絡したところ、数日後には来社され様々な説明をいただきました。デモ機も早い段階で準備していただき、仕様チェック、様々な疑問・要望など数ヶ月に渡る打合せの結果、条件を満たせることから採用に至りました。

#### 設計・構築にあたって

On-Air 3000はデジタル卓とはいうもののアナログ的な視認性であるため、ディレクターには馴染みやすいデザインと操作性でした。

中継回線の多い生番組、再生素材の多い録音番組両方のシーンに対応するには入力モニター系を含めると50回線、出力においては30回線程度が必要になりました。ただし同時に全てのソースを使用することはまず無いことからフェー

ダーは20本程度にし、ルーティング機能やスナップショット機能を使用することによりコンパクトなレイアウトとしました。

豊富なGPIOは入出力各48系統程使用しました。中継現場への送り返しのマイナスワン素材切替制御や卓からのマイク系全ての一括制御、また、生放送時にはアナウンサーにマイク制御優先権を、録音時にはオペレーターにマイク制御優先権を持たせる等といった制御を、On-Air 3000の柔軟な機能と独自のインターフェイスを製作することにより実現できました。

#### 最後に

2007年4月3日13時、大勢の内外の関係者に見守られる中、「e studio」からの生放送を無事にスタートすることが出来、システム構築の担当者としてはうれしい限りです。親しみやすいデザインや光の差し込む明るい環境は、アナウンサー等からも好評なスタジオとなりました。

最後に、スチューダー・ジャパン様、株式会社ヤマミ様など今回のプロジェクトに尽力頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。